

新報

島根教育庁
隠岐教育事務所
隠岐の島町湖原4
電話2-9772

『幼児期の教育』について

「幼児期の教育」と聞いて、早期教育のことを思い浮かべると思います。しかし、これからの時代は、答えの見つかっていない問題にも柔軟に対応できる知性いわゆる資質・能力を育てることが求められています。

乳児期の子供が、生活や遊びの様々な場面で、主体的に周囲の人や物に興味を持ち、直接関わっているとする姿は「学びの芽生え」といえるものであり、一生続く学びの出発点となるものです。子供たちは、楽しさを求めて行動し、遊びを通して楽しさや面白さを感じつつ様々な物事を体験し、その楽しい活動の過程や結果が学びとなります。

く松林や砂浜を園庭のように使い、保育室から色々な材料や段ボールを運び遊びます。段ボールの家は折りたたみ式で、時々ガムテープで補修したり、壁に絵を描いたりしながら「キャンプごっこ」を楽しんでいました。近くに松ぼっくりやドングリが沢山落ちており、それを拾ってごちそうにしたり、ペットボトルなどで作ったドングリ転がしで遊んだりしました。片付けの時、大きな段ボールの家が畳めず四苦八苦していたところへ突風が吹き、風の勢いで段ボールが畳まれました。その風の力を見た子供たちは「すごい！風さんが畳んでくれたね」「風さんありがとう」と歓声をあげていました。

芽生えを培う上で基礎となるものです。幼児期の教育は総合的で、教育の要素が多岐にわたるためわかりにくい面があります。しかし、素晴らしい環境を十分に生かそうとする保育士とそれを受けて自然を学びにすする子供たちの姿から幼児期の教育の一端を見たように思いました。

(文責 若林)

特別支援教育について

高等学校における特別支援教育の推進を目指し、島根県では県内五つの圏域にインクルーシブ教育システム推進センター校が配置されました。隠岐圏域でも今年度から隠岐高等学校が隠岐地域センター校に指定され、県立高校で通級による指導が受けられる体制の整備が進んでいます。

このことは、高等学校でも通級指導が利用できること、そして誰もが同じように学べる授業のユニバーサルデザイン化がされることとなります。それにより、全ての生徒が授業の

内容が分かり、学習に参加している実感や達成感を味わいながら充実した時間を過ごすことにより、生きる力を身につけていくというインクルーシブ教育の視点に立った特別支援教育の推進が期待されます。

昨年受講した研修の中で、インクルーシブ教育システムについて、『特別支援教育と通常の教育との融合を目指すことであり、特別支援教育を専門とする者が、通常の学級の教員に一方的に知識、ノウハウを教えることではない』

『通常の学級の教員が既に実践している個に対する支援の意義を見いだすことが印象に残りました。つまり、インクルーシブ教育を推進するために新しいことをしなければならぬということではなく、これまで実践している支援の重要性や必要性を確認し、校内で共有することが大事であるということ。』

今年度、各小・中学校を訪問させていただく中で、「授業のユニバーサルデザイン化」を実践されている授業をたくさん見せていただいたいております。今後も各学校で先生方が日々実践しておられる支援の大切さを共有させていただければと思います。

(文責 岡本)

社会教育士等研修

本研修は昨年度まで、島根県教育庁社会教育課主催で『有資格者会(令和元年度まで)』『共学ネットワーク研修会(令和二・三年度)』という名称で開催されてきました。今年度より、市町村の実情に即した特色ある内容となるように、各教育事務所では社会教育士等研修として実施することになりました。

十月十四日、隠岐合庁で本研修会を開催しました。社会教育に関心のある方や関係者が参加し、人づくりや地域づくりの実践に必要な視点を学んだり、互いにつながりを深めたりすることに、社会教育の充実を図ることが目的です。研修会の内容は以下のとおりです。

「これからの社会教育」講師 島根大学教育学部 特任教授 山中慎嗣 氏
☆事例発表
「ふるさと教育の取組」
○西ノ島町
廣江 社会教育主事
○知夫村
広兼 社会教育主事
敷 社会教育主事
☆協議
グループごとに情報共有や意見交換
研修会の成果として、①各町村で実施している様々な社会教育活動が社会教育の方針にどのよう位置・価値づけられるのか(何のために実施することか)を常に意識すること。
②行政(教育委員会等)と社会教育施設(公民館・図書館等)の役割の違いや、そこに関わる社会教育主事の大切にすべき視点などを学ぶことができました。

隠岐で初めての試みでしたが、参加者が積極的に研修に参加していた様子が印象的でした。来年度以降も、よりよい研修となるよう企画・運営していきたいと思っております。

(文責 加多)